

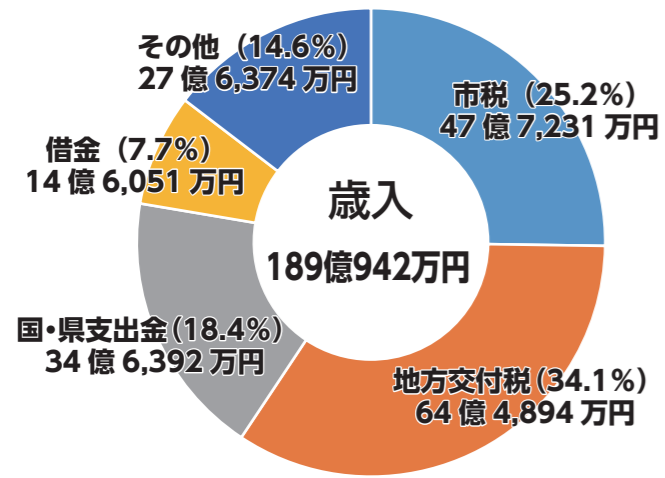
平成30年度 決算を報告します

西脇市の平成30年度決算がまとまりましたので、一般会計、特別会計、企業会計の状況についてお知らせします。また、基金や市債の残高、健全化判断比率についても公表します。

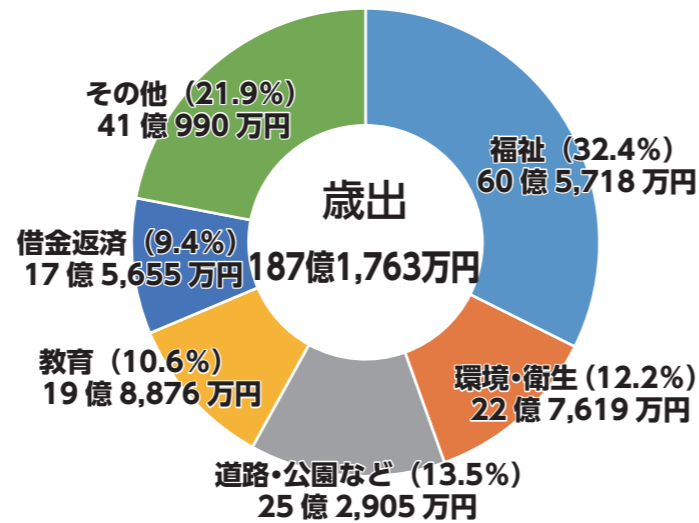
◆問合せ 財政課（市役所内線388）



一般会計歳入



一般会計歳出



収支のバランス

平成30年度一般会計では、歳入総額が189億942万円、歳出総額が187億1,763万円で、平成31（令和元）年度へ繰り越すべき財源の4,357万円を差し引き、1億4,822万円の黒字となりました。

また、特別会計と企業会計の決算概要は次のとおりです。両会計は特定の事業を行うために、一般会計とは分けて設置されるものです。



◆会計別決算

会計	歳入	歳出	差し引き
一般会計	189億942万円	187億1,763万円	1億9,179万円
特別会計	国民健康保険	44億5,256万円	1億2,422万円
	学校給食センター	2億9,168万円	0円
	老人保健施設	4億7,248万円	0円
	公営墓地	522万円	0円
	介護保険	46億2,867万円	1億1,526万円
	茜が丘宅地供給事業	3,225万円	0円
	後期高齢者医療	5億8,329万円	1,637万円
	太陽光発電事業	6,823万円	0円
企業会計	水道事業	11億675万円	2,334万円
	下水道事業	20億7,115万円	12万円
	病院事業	82億8,235万円	8,881万円

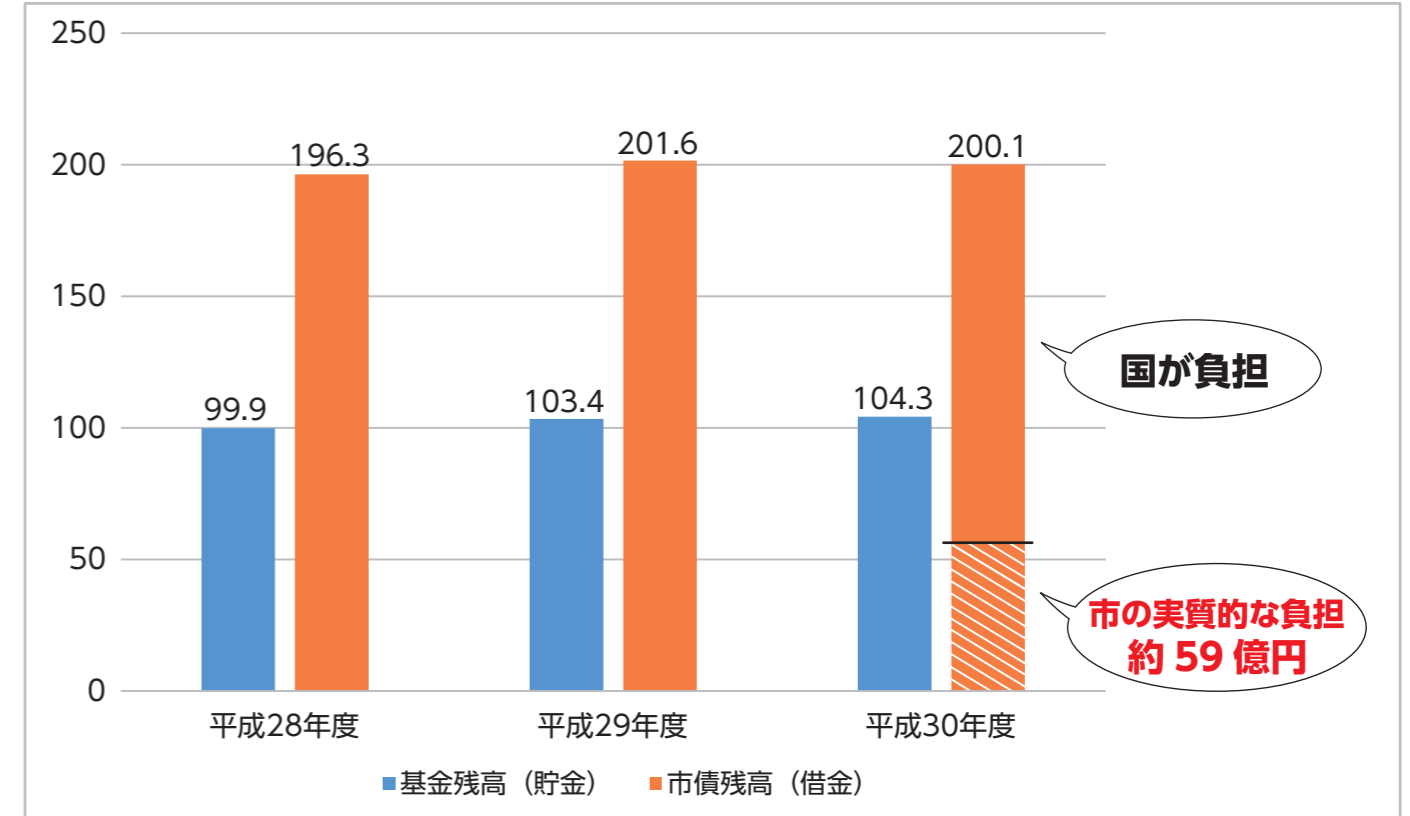
貯金と借金

平成30年度末の一般会計ベースの基金残高（貯金）は104億3,349万円となり、昨年度と比べて9,671万円増加しました。一方、市債残高（借金）は200億1,439万円となり、1億4,735万円減少しました。市債残高のうち、合併特例債および緊急防災・減災事業債の70%が、臨時財政対策債の100%が、それぞれ交付税措置されますので、**実質的な市の負担額は約59億円**となります。

なお、特別会計、企業会計を加えた市全体の基金残高は111億6,847万円、市債残高は489億6,547万円です。



◆基金残高と市債残高（一般会計ベース／単位：億円）



財政状況

自治体の財政状況を示す「健全化判断比率」では、「健全段階」、「早期健全化段階」、「財政再生段階」の3段階に区分されます。

西脇市は平成30年度決算において、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率のいずれの指標も国が定める基準を下回り、前年度に引き続き「健全段階」となっています。また、企業会計においても資金不足は発生していません。

西脇市は**健全財政を維持**しています。

この基準を超えると
イエローカード
この基準を超えると
レッドカード

◆健全化判断比率

項目	平成30年度決算	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	13.08%	20.00%
連結実質赤字比率	—	18.08%	30.00%
実質公債費比率	8.7%	25.00%	35.00%
将来負担比率	2.0%	350.00%	—

【指標の説明】

実質赤字比率…市の会計などの赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すもの。

連結実質赤字比率…全ての会計を合算し、市全体の赤字の程度を示すもの。

実質公債費比率…財政負担を見るために、借金の返済の大きさを指標化したもの。

将来負担比率…将来の負担を見るために、借金や今後支払いが見込まれる負債分を指標化したもの。